

「休ヶ岡りんりん♪まなび舎」 始まります。

第1回は漆の修理のお話です。「休ヶ岡りんりん♪学び舎」は奈良・西ノ京で文化を学び、音楽を楽しむ会です。休ヶ岡八幡宮は昔、八幡神がご休憩をとられた地。古い記録には雅楽やお能だけでなく、当時盛んだった様々な芸能が奉納された「芸能神社」でもあったことが記されています。薬師寺をお守りする神社さまで、心を休めてゆっくり講座や音楽を楽しみませんか？ まなび舎は1年開講予定です。

小西寧子

所属 日本工芸会準会員

漆工史学会

1968 奈良市生まれ

1988 京都女子大学短期大学部

文科国語専攻 卒業

1992 結婚を機に実家の家業で

ある漆工芸を始める

1993 第22回日本伝統工芸近畿

展初入選

2002 日本伝統工芸展初入選

2004 日本伝統漆芸展初入選

2006 文化庁文化財修理技術者

講習修了

2009 高島屋大阪店「螺鈿の系

譜 人間国宝 北村昭斎展」

2012 国際漆芸玩飾展(北京

QIAO GALLAERY)

2013 高島屋大阪店ギャラリー

NEXT 北村繫・小西寧子

二人展

(株)川島織物セルコン袋

帯「優花彩菱」「麗花段

文」の帯用装身具制作

2015 2015-2017年 第一期「工

藝を我らに」(資生堂ア

ートハウス)に出品、創設メ

ンバーとなる

江戸時代の蒔絵の修理

伊藤えり (聞き手・笙の演奏)

「箏築一代、龍笛三代、笙は末代(まで持つ)」と言われて
いるだけあって、一千数百年も前に制作された正倉院にある
笙などは、いまだにその美しい姿を保っています。

ですが、その維持や修理には並々ならぬ労力と技術が必要
です。あるとき、笙の生徒さんが骨董屋で購入したという、
江戸時代の笙を持ってこられたとき、わたしは頭を抱えまし
た。きれいな蒔絵には亀裂が走っていて、これまでは「割れ
てしまった蒔絵は潰して新しく塗り直すしか、修理のしよう
がない」と伺っていたからです。また、修理によって新品の
ようになってしまっただけでは古管の良さが失われてしまいます。

ところが昨年、偶然に小西寧子さんとの出会えたことで、
笙の見事な蒔絵は、古管の持つ雰囲気と奥ゆかしさを残した
ままに、蘇ることができました。

蒔絵の修理で苦勞される点(特に笙の場合)や伝統的な技
術を維持し、守り、大切にしている小西さんのお仕事の内容を詳
しくお話いただけましたら、と思っています。

最後に今回修理された笙ではありませんが、笙という楽器
の実際の演奏もお届けいたします。どうかお楽しみいただけ
ますように。

(伊藤えり プロフィール)

笙奏者。笙とシンセサイザーによる即興演奏なども手がける。2011
年、東京から大好きな奈良に移住、国内・海外で活躍中。

第2回休ヶ岡りんりん♪学び舎は6月18日は森川浩恵・訓恵姉妹(箏)と伊藤えり(笙)のユニット「Sleep Slept Slept」のコラボ・コンサート! ゆっくり眠れる優しい音楽をお届けします!